

## 平成22年度 事業報告

平成22年度にあつては、昨年同様、石綿に対する一般の注目が沈静化を見せているがその実、根本的な対策実行はいよいよこれからであり、本会もアスベスト対策のため各行政機関に協力し社会的責任を果たした。

まず各省の要請に応じ委員として参画し過去の蓄積した知識・技術を生かし提言し、また各地の講演依頼に講師を派遣しアスベスト対策の周知啓蒙に勤め、更に社会の要求に対応すべくスタッフの充実を図った。具体的には下記の通り。

- ①継続的に厚労省・環境省の委託委員会に技術者を派遣し、また要請に応じアジア諸国へも石綿に関する講義等を行った。
- ②負圧・除塵装置等の効果確認実験  
以後その実地データの解析を進め、妥当性のある方策作成へと継続する。
- ③専門誌の投稿と講演依頼でアスベスト問題の理解を広めた。
- ④ホームページ初画面の改訂等  
サイトマップを新設すると共にQ & Aや事前調査結果報告書様式の改訂を行った。
- ⑤解体工事方法や石綿有無の質問等に対応

アスベスト診断士研修会は専門家の協力を得て今年度も4回開催し順調に推移した。併せて26回を終了して1000名余を全国に送り出し、各地域の診断に役だっている。更に、各地域のアスベスト調査診断協会とは良好な関係の維持に努め、講演依頼に応じて最新知識を伝え、併せて地域社会への貢献を助成した。更新研修は診断士数増加のため年3回から6回に増やし、インストラクターも活用して知識伝達の精度を上げた。

公益法人の制度改革においては移行への準備のため、ワーキンググループを設置して、定款を検討し改訂案を作成し、併せて規定類の整備をした。また石綿処理部会の体制を見直し社団化改革に対応できる組織・規定を整えた。更に公益事業内容の検討にかかり恒久的に社会に貢献できる体制づくりに入った。